

# 「小長井・大浦漁業再生請求」訴訟に、ご理解とご支援を！

9月29日、長崎地裁（須田啓之裁判長）で、「小長井・大浦漁業再生請求」訴訟の第2回口頭弁論がおこなわれました。

## 国・農水省の“まじめさ”を問う

国・農水省は、佐賀地裁の「諫早湾潮受け堤防の排水門を5年間常時開門せよ」の判決を受けながら、「開門のためのアセスメントをおこなう」と言いつつ、福岡高裁に控訴しました。しかも、アセスメントの担当者は農水省の官僚で、この裁判の担当者

と同一人物です。このようなやり方に、国・農水省の意図するものが見えみえです。これでは、国・農水省がほんとうにアセスメントや開門をおこなうとは、私たちには思えません。



## 国民・県民の願いは、漁業と農業の〔対立〕ではなく〔両立〕

私たちは、この間、すでに国会の場でも、農水省に開門できない理由を全部ださせて討論をし、すべて技術的に解決できることを確認しています。

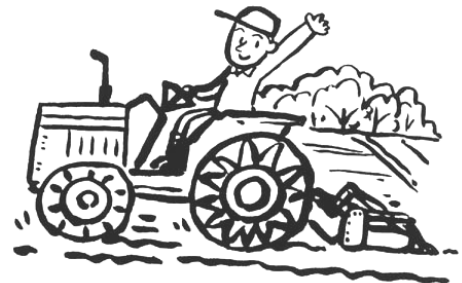
当日の口頭弁論でも、私たちは改めてこのことを解明し、干拓地農業に問題の起きない、安全かつ農業用水の代替案もはっきりさせた「開門」を提示しました。

国や県も、農業と漁業の対立を煽り、感情的でメンツにこだわる「開門反対」でなく、〔両立〕こそ国民・県民の願いであることを理解して対応し、私たちとの話し合いのテーブル



ルについてほしいものです。

私たちは、長崎地裁の法廷を「開門」についての協議と和解の場にしていきたいと思っています。みなさんのご理解とご支援を心からお願いします。



2008年10月

「よみがえれ！有明海訴訟」を支援する長崎の会  
長崎県労連内 TEL 095-828-6176

裏面もご覧になってください。

# みなさん、一緒に考えていただけませんか

## 諫早湾干拓・調整池に2年連続、大量のアオコが発生

いま、諫早湾干拓の農業にアオコまで発生するような調整池の水が使えるかどうか、大きな問題になっています。皆さんに下記のような資料を提供しますので、ご検討ください。

### アオコ（青粉）とは？

富栄養湖で藍藻類が異常増殖し、青(緑)色の粉が水面に散りばめられたように浮遊する（共立出版・環境用語辞典より）

### アオコの被害（フリー百科事典：ウィキペディアより）

アオコが発生するとさまざまな不都合が生じる。人間社会においては、湖沼自体の利用障害となる（例えば鯉をはじめとする養魚、淡水漁業、近隣の生活環境、親水、観光産業など）ほか、取水源として利用する水道水の異臭・異味の原因となり、さらには、人や家畜への健康被害も懸念される。また、湖沼周辺の生態系など自然環境を損なうおそれも高い。



北部排水門近くのアオコ(手前の濃い水面)

### 遮光によるもの

水面をアオコが覆うと、水草など他の水生植物は、光合成ができず死滅する。水草の森は、魚類の産卵や稚魚の生育場所として重要であり、その消滅は生態系の破綻を招くおそれがある。

### 酸欠によるもの

夜間の呼吸作用により溶存酸素が消費され、魚類などの動物が酸素欠乏により死滅する。湖沼は河川に比べて酸素の供給効率が低く、新鮮水による洗い流し効果も無いため、酸欠を招きやすい。また、アオコの死骸が湖底で腐敗すると、硫化水素などの還元性物質が発生し、やはり酸素を消耗する。

### 毒素によるもの

（諫早湾干拓の調整池のアオコからミクロシスチンが検出されました）

藍藻には非リボソームペプチドであるミクロシスチンなどの毒素を生産する個体群が含まれており、赤潮と同様に魚類のエラを閉塞させ窒息させるほかにも、毒素による斃死を招くことがある。また、アメリカ、オーストラリアなど放牧が盛んな国では、飲用した家畜の斃死が多発している。ヒトに対しても、1996年、ブラジルで肝不全による死者50名を出す事件が報告されているほか、発癌性（肝臓ガン）が指摘されている。